



2015年9月30日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第125号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 23名の研修員が1年間の第55回研修コースを修了
- 国土交通大臣表敬訪問
- 学位記授与式 -政策研究大学院大学-
- 研修員代表答辞

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

23名の研修員が1年間の第55回研修コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

2014—2015年の地震学、地震工学、津波防災の研修コースの閉講式が、9月16日(水)(10時30分～11時30分)に建築研究所講堂において挙行されました。

1960年に東京大学で開始された研修は、関係省庁の協議の結果、1962年から建築研究所が引き継ぎ、実施しています。



建築研究所 坂本理事長

式典には、研修員を含めた約45名の関係者の皆様が列席されました。閉講式(JICA と建築研究所の合同式典)は、JICA 筑波国際ナショナルセンターの芳賀所長と建築研究所 坂本理事長の祝辞で、始まりました。お二人の挨拶に続き、来賓の政策研究大学院大学の安藤教授からご祝辞をいただきました。(政研大は、修士プログラムの共同実施者になり

ます。)

祝辞に引き続き、研修修了証と科目履修証が研修員に授与されました。その後、ベストリサーチ賞の授与が行われました。ベストリサーチ賞は、政研大と国際地震工学センターが、学術的にレベルの高い優れた修士論文を執筆した研修生3人に対し、その栄誉を祝福するために授与しています。

今年 は、モンゴルの Mr. Baasambat TSAGAAN(バスカ)、バングラデシュの Mr. Md.Jahidul Islam KHAN (ジャヒド)、エクアドルの Ms. Teresa Jacqueline VERA SAN MARTIN(テレサ)、の3人が受賞しました。



修了証授与

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

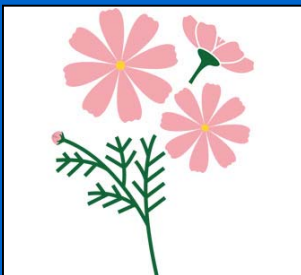
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



閉講式

昨年創設された、国際地震工学センター長賞を、モンゴルの Ms. Baigalimaa GANBAT (バイラ)、バングラデシュの Mr. Md. Shafiul ISLAM (シャフィウル)、ペルーの Ms.Nadia Eda MACAVILCA ROJAS(ナディア)、フィリピンの Ms.Kathrine Anne Malabuyoc CAILING(カスリン)の4人の研修員が受賞しました。同賞は、研修プログラムにおいて優秀な成績を収めた者に贈られます。

最後に、インドネシアの Mr. Urip(ウリップ)が研修員を代表し答辞を述べ式典は終了しました。(P4 をご覧下さい。)

国土交通大臣表敬訪問

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

平成27年9月4日、2014年—2015年研修生は、国土交通省の大臣室に、太田昭宏国土交通大臣を表敬訪問しました。



太田大臣と研修員

太田大臣は、京都大学で土木工学を学ばれ、耐震工学に大変造詣が深く、ご自身の大学・大学院時代の研究テーマから話を始められ、日本の地震災害対策への努力について日本地図を指さしながら熱心にご紹介いただきました。大臣は、研修生がそれぞれの国の防

災分野で活躍して欲しいと激励され、さらに今後も連携をしていこうとおっしゃられました。

モンゴルの Ms. Baigalimaa GANBAT (バイラ)が、研修生を代表して大臣に御礼の言葉を述べました。また、ネパールの Mr. Harish Chandra LAMICHHANE (ハリ



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

ツシュ)、インドネシアの Mr. Urip Setiyono (ウリップ)、バングラデシュの Mr. Md. Shafiul ISLAM (シャフィウル) が、それぞれの研究を紹介しました。

太田大臣のご厚意により、研修生は大臣室で約30分過ごし、最後は1人ずつ握手をして退室しました。



研修員代表挨拶

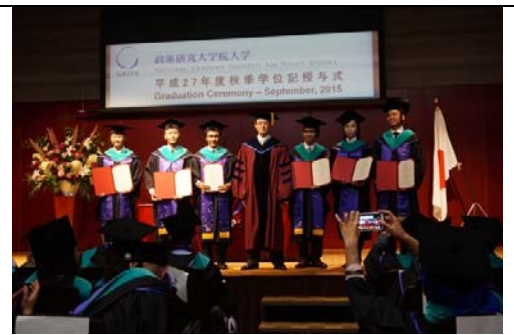
学位記授与式 -政策研究大学院大学-

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

政策研究大学院大学との共同事業により、IISEE研修生は、1年間の研修を修了すると修士(防災政策)号を取得することができます。



修士号学位記授与



Dean's Award の受賞
(ウリップ氏 左から二人目)

2014年—2015年研修コースの研修生も、政策研究大学院大学(GRIPS)の評価基準と評定に合格することができました。9月17日に、GRIPSの想海樓ホールで学位記授与式が挙行されました。博士課程と修士課程の修了生176名が学位記を授与しました。

IISEEの研修生を含めた防災政策プログラムの卒業生は38名でした。最初にモンゴルのMr. Baasambat TSAGAAN(バスカ)が学位記を受取りその後全員が続きました。また、GRIPSの各プログラムにおける成績優秀者に送られるDean's Awardをインドネシアの Mr. Urip Setiyono (ウリップ)が受賞しました。

式典の後は、卒業生と関係者はレセプションに参加しました。研修生全員が修士号の学位記を持って幸せそうでした。まさに研修生にとっては幸せなそして最後の日となりました。最後に、IISEEとしてお世話になった皆様から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



学位授与式にて



研修員代表答辞

インドネシア Mr. Urip Setiyono(ウリップ氏)

坂本建築研究所理事長、横井IISEEセンター長、安藤GRIPS教授、芳賀JICA筑波国際センター長、そして、皆様方、おはようございます。地震耐震防災復興政策、津波防災コースに参加した研修員を代表して、僭越ながら、この場を借り、一言申し上げます。

わたくしたちは、一年間という短い期間ではありましたが、日本の社会に触れる機会をいただき、とても光栄に存じます。この一年間、科学や技術分野のみならず、日本文化、日本の方々との触れ合いを通じ、貴重な経験を得ることが出来ました。また、日本の方々の気質というものは、すべての分野の人材育成において、重要な要素になっていることに気が付きました。

ここで、一つのことわざを紹介いたします。「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」(Frank Outlaw)



ウリップ氏(閉講式にて)

日本の社会では、多くの方々がとても重要な気質をもっています。それは、誠実さ、高潔さ、幸福感、仕事への誇り、完成性、努力、責任、高い関心、勤勉、成し遂げる力、あきらめない心、忍耐などの、素晴らしい気質です。

技術の開発や革新とは、このような気質を持つ人から生まれ、達成するものであります。それは、完璧さにも表現されます。

この完璧なものから、高品質の製品が生まれ、その品質が、生きていく力や繁栄へともたらしていきます。素晴らしい製品というものは、素晴らしい作業から生まれるのですから、日本の製品が、

世界の市場で常に、選ばれることは驚くに値しません。

この日本で起きた自然災害を研究することで、わたくしたちは、革新とは災害が障壁にならないことを学びました。東日本大震災、新潟中越地震、阪神淡路大震災は、日本を襲った最もたる災害です。しかし、このような大災害を通じて、新しい技術が生まれるのです。研究というものが、日本の方々にとっての文化であり、技術革新への重要な要素となっているのです。ですので、途上国の若者が、競って日本で学ぶ機会を得たいと思うのは不思議ではありません。

わたくしたちが、ここで得た知識が、自国でも高めることができるよう、わたくしたちは、それぞれの国で、革新を担う人になることを心から望みます。そして、将来、自国が繁栄することを。

成功というものは、自分の業務に幸せを見出し、その業務に誇りを抱く人にとっての成功に他ならないのです。そして、そこにはその勤勉さから素晴らしい製品が生まれます。革新とは、忍耐、努力、高潔、勤勉なくして達成しえないうえ、自らの業務に幸福を感じる者のみが完成できるのです。ここで、あることわざを引用します。「素晴らしい仕事とは、冷たい心の持ち主からは生まれません。思い遣る気持ちが、何かを作るうえで、必要となるのだ。偉大な業績とは、情熱を燃やす、一連の作業なのだ。」(トウルーマン大統領)

最後に、JICA、建築研究所、国際地震工学センター、政策研究大学院大学、そしてこの研修コースに尽力いただいたすべての方々に、今一度、お礼を申してスピーチを終わりにいたします。

ありがとうございました。